

道央自動車道
産化美唄川橋補修工事

特記仕様書

令和6年8月

東日本高速道路株式会社 北海道支社

旭川管理事務所

目 次

1. 工事概要	1
2. 適用する共通仕様書	1
3. 監督員及び主任補助監督員の権限	1
4. 配置技術者に関する事項	2
5. 関連施設その他との関係	2
6. 作業日及び作業期間に関する事項	3
7. 週休2日工事	4
8. カーボンニュートラル試行工事	6
9. 関連工事に関する事項	7
10. 工事費構成内訳書に関する事項	7
11. 工程表及び履行報告に関する事項	7
12. 工事用道路に関する事項	8
13. 貸与品に関する事項	9
14. 残存物件の処理に関する事項	9
15. 保安に関する事項	9
16. 環境保全に関する事項	13
17. 再生資源及び建設副産物に関する事項	14
18. 補完検査に関する事項	15
19. 現場環境改善に関する事項	16
20. 工事用プレートに関する事項	17
21. 工事変更等検討会の設置	17
22. 工事細部に関する事項	17
23. 割掛対象表の項目に示す工事の内容	25
24. 補足事項	25
様式－1	取得報告書
様式－2	工事費構成内訳書及び工程表の提出について
様式－2（別添）	工事費構成内訳書
様式－3	工程表
様式－4	工事工程報告
様式－5	間接工事費計画書の提出について
様式－6	間接工事費の増加費用に関する協議書
様式－6（別添）	変更間接工事費計画書
様式－7	間接工事費の増加費用見積書
様式－8	間接工事費の増加費用同意書
様式－9	カーボンニュートラル施工計画書
様式－10	創意工夫・社会性等に関する実施状況
別添－1	実績価格調査票の提出について

1. 工事概要

- 1-1 工事名 道央自動車道 産化美唄川橋補修工事
- 1-2 道路名 道央自動車道
- 1-3 工事箇所 自) 北海道美唄市東明 (K P N 53. 1)
緯度43° 19' 59" 経度141° 53' 18"
至) 北海道空知郡奈井江町 (K P N 66. 7)
緯度43° 27' 2" 経度141° 55' 5"

1-4 施工地域区分

本工事の実施工場所の施工地域区分は以下のとおりである。

- ・2車線以上(片側1車線以上)かつ断面交通量が5,000台/日以上的車道において車線変更を促す規制を行う場合の工事
- ・市街地部(D I D地区及びこれに準ずる地区)が施工場所に含まれない工事
- ・本工事の間接工事費率適用区分は「修繕」工種区分は「橋梁保全」である

1-5 コリンズへの工事概要及び位置情報の入力

土木工事共通仕様書1-54「コリンズへの登録」について、位置情報及び工事概要の項目には、本特記仕様書の1-3「工事箇所」の記載内容を入力することとする。

2. 適用する共通仕様書

契約書第1条に規定する「土木工事共通仕様書」(以下「共通仕様書」という。)は、令和6年7月版とする。なお、共通仕様書に記載された適用すべき諸基準については入札公告時点の最新版を適用するものとする。

3. 監督員及び主任補助監督員の権限

3-1 監督員の権限

契約書第9条第2項の規定に基づき監督員に委任した権限について、共通仕様書1-6-1「監督員の権限」の規定に次を加えるものとする。

(16)「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月31日法律第104号)

第12条第1項の規定に基づく説明先及び同法第18条第1項の規定に基づく報告先

(17) 本特記仕様書24-5の規定に基づき行う工事費構成内訳書の提示、実績変更対象費の増加費用の協議、決定、通知

3-2 主任補助監督員の権限

共通仕様書1-6-3(2)のほか、主任補助監督員に委任した権限は次のとおりである。

- ・共通仕様書に規定する監督員の権限のうち下表の事項

章	項 目	内 容
1-25-1	安全対策	安全教育の提出先
19-3-3	交通規制計画	交通規制工実施報告書の提出先
19-4-3	交通保安要員計画	交通保安要員実施報告書の提出先

4. 配置技術者に関する事項

4-1 配置技術者の資格

主任技術者又は監理技術者は、次の基準を満たす技術者を専任で配置すること。

- (1) 主任（監理）技術者が、本工事に対応する建設業法の許可業種（土木工事業）に係る資格を有する者であること。
- (2) 監理技術者である場合は、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者であること。

4-2 配置技術者の工事経験

現場代理人、主任技術者及び監理技術者のうち、いずれかの者が平成21年度以降に元請として完成及び引渡し完了した次の施工経験を有すること。なお、施工経験における従事役職は問わない。また、経験を有する者が現場代理人のみであった場合には、その者は本特記仕様書4-1(1)に示す資格を有している者でなければならない。（共同企業体の構成員としての施工実績は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。）

（工事経験）

橋梁の維持修繕工事

※ただし、工事内容が橋梁の塗替塗装のみの場合は、実績として認めない

5. 関連施設その他との関係

本工事に関連する主な施設及び管理者は、下表のとおりである。

(1) 規制関係

道路名及び位置	管理者名	摘要
道央自動車道	北海道警察本部交通部 高速道路交通警察隊	交通規制

(2) 道路・鉄道関係

位置	路線名等	管理者名	摘要
産化美唄川橋	市道 側道 33 号線	美唄市	交差
豊沼奈江川橋	公衆用道路（奈井江町所有）	奈井江町	交差
	豊沼奈江川 河川管理用道路	北海道空知総合振興局	交差

(3) 河川・水路関係

位置	路線名等	管理者名	摘要
産化美唄川橋	一級河川 石狩川水系 産化美唄川	北海道空知総合振興局	敷地利用
豊沼奈江川橋	一級河川 石狩川水系 豊沼奈江川	北海道空知総合振興局	敷地利用

(4) 電力・通信施設関係

位置	路線名等	管理者名	摘要
産化美唄川橋	光通信ケーブル	KDDI(株)	橋梁地覆埋設
豊沼奈江川橋	メタル通信ケーブル	東日本高速道路(株)	橋梁地覆埋設、橋梁添架
	電源ケーブル		橋梁添架、地這

上記(1)項の高速道路の交通規制に必要な協議については、原則として発注者が行うものとする。

上記(4)項において、受注者の都合で移設を行う場合は、受注者の負担で行うものとする。なお、この場合、事前に移設計画書を監督員宛に提出し、確認を得るものとする。

(5) その他

受注者は、上記以外の本工事に関係する施設等を発見したときは、監督員に通知し、監督員の指示に従わなければならない。なお、監督員の指示により受注者が移設する場合は、これらに要する費用について監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

6. 作業日及び作業期間に関する事項

6-1 冬季休止期間

共通仕様書 1-1-3 「作業日」の規定による他、工期内の 12 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの期間は冬季休止期間として、現場の作業を行ってはならない。やむを得ず現場の作業を行う必要がある場合、受注者は作業理由とその施工計画書を監督員に提出し、確認を得なければならない。監督員は提出された冬季休止期間作業確認願の内容を確認後、その結果を書面にて通知するものとする。

なお、受注者の事由により冬季休止期間中に現場の作業を行った場合の増加費用については、すべて受注者の負担とし別途支払は行わないものとするが、監督員が冬季休止期間中の現場の作業を指示した場合の費用については、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

6-2 作業期間

共通仕様書 1-1-3 「作業日」の規定による他、下表に示す期間は作業を行ってはならない。やむを得ず作業を行う必要がある場合は、受注者は理由を付した書面を監督員に提出し、確認を得なければならない。

期間（予定）	区間	摘要
令和 7 年 4 月下旬～令和 7 年 5 月上旬の 14 日間	美唄 IC～ 奈井江砂川 IC	交通規制を伴う作業
令和 7 年 8 月上旬～令和 7 年 8 月下旬の 14 日間		

なお、記載している期間は現時点での予定であり、詳細については別途監督員から指示するものとする。

6-3 交通規制可能時間

下表に示す項目の施工に伴う交通規制可能時間は表中に示す時間内とする。なお、監督員の指示により規制開始の延期又は途中で規制解除（工事中止）を行うことがある。また、受注者は、交通規制による著しい渋滞若しくは、そのおそれがある場合や、交通の危険及び異常気象時には、監督員の指示により、一時規制を解除（工事中止）する措置を講じなければならない。これらの措置に要する費用は、監督員と受注者で協議し定めるものとする。

【高速道路】

単価表の項目	上下別	施工区間	交通規制可能 時間帯	摘要
中央分離帯転落防止網撤去設置工 排水装置取替 コンクリート除去工 検査路撤去設置工	上下線	美唄 I C ～奈井江砂川 I C (産化美唄川橋)	日出～日没	車線規制

【一般道】

単価表の項目	施工位置・区間	交通規制可能時 間帯	摘要
排水装置取替 断面修復工 コンクリート除去工 伸縮装置補修工	市道 側道 33 号線	日出～日没	通行止め
	公衆用道路（奈井江町所有）		
	豊沼奈江川 河川管理用道路		

7. 週休 2 日工事

本工事は、監督員と受注者双方が工程調整を行うことにより、週休 2 日を達成するよう工事を実施する「週休 2 日工事（発注者指定方式）」である。

7-1 定義

- (1) 「週休 2 日」とは、対象期間において、4 週 8 休以上の現場閉所を行ったと認められる状態をいう。
- (2) 「対象期間」とは、次の各号に掲げる期間を除く工事着手日から工事が完成した日までの期間をいう。
 - 1) 共通仕様書 1-13 「作業日」に規定する 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日まで及び夏期休暇（3 日）の期間
 - 2) 共通仕様書 1-35 「工事の一時中止」に規定する工事全部を中止する期間
 - 3) 工場製作のみを実施している期間
 - 4) 本特記仕様書 6. 「作業日及び作業期間に関する事項」に規定する、工事全体を施工対象外としている期間
- (3) 「4 週 8 休以上」とは、対象期間内の現場閉所日数の割合（以下、「現場閉所率」という。）が、28.5%（8 日／28 日）以上の水準に達する状態をいう。
- (4) 「現場閉所」とは、巡回パトロールや保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での事務作業を含めて 1 日を通して現場や現場事務所が閉所された状態をいう。なお、降雨、降雪等による予定外の現場閉所日についても、現場閉所日数に含めるものとする。

る。

7-2 履行確認（週休2日の確保の確認方法）

- (1) 現場閉所を行うときは、工程会議等により監督員が事前に把握している場合を除き、事前に監督員にメール等で連絡をするものとする。
- (2) 受注者は、工事完了後に、週休2日の取得結果が確認できる「取得報告書」（様式-1）を作成し、監督員へ提出するものとする。また、工事途中において、監督員より「取得報告書」の作成及び提出を求められた場合は、その求めに応じるものとする。
- (3) 監督員は、受注者から提出された「取得報告書」を基に、週休2日の取得状況を確認するものとする。
- (4) 履行確認の結果、4週8休以上の現場閉所率に満たないものは、請負代金額を減額変更するものとする。

7-3 工期

本工事は、共通仕様書1-12「着工日」の規定によらず、受注者の円滑な工事施工体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間を設定した工事であり、発注者が示した余裕期間内（工事着手期限までの間）で、受注者が工事の始期を任意に設定することができる。

余裕期間内は、主任技術者又は監理技術者を配置することを要しない。また、現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、現場事務所等の設置、資材の搬入、仮設工事または測量等、工事の着手を行ってはならない。なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。

受注者は、受注者が設定した工事の始期までに、「工事打合簿」にて監督員に着工日を通知した上で、工事に着手しなければならない。

余裕期間（工事着手期限）：契約保証取得の日の翌日から60日間（まで）

7-4 週休2日工事に要する費用

7-4-1 補正対象項目及び補正方法

見積活用方式を採用する工事において、見積対象とした項目においては、最終参考見積書の内訳（材料、労務費、機械経費、その他、割掛費等）を確認し、週休2日に係る費用が含まれていないものについては、東日本高速道路㈱の土木工事積算基準の規定(4週8休)に基づき補正額を算出するものとする。

また、週休2日の確保を本特記仕様書7-2「履行確認（週休2日確保の確認方法）(2)」による確認後、4週8休以上の現場閉所率に満たないものは、請負代金額のうち補正分を減額変更するものとする。

なお、減額費用の算出方法等の取扱いについては、共通仕様書1-33-1「新単価」の規定によるものとし、見積対象とした項目においては、最終参考見積書に記載している週休2日に係る費用の内訳（材料・労務費・機械経費・その他・割掛費等）に基づき減額変更を行うものとする。

最終参考見積書に内訳の記載がないものについては、東日本高速道路㈱の土木工事積算基準により減額費用を算出するものとする。

7-4-2 支払

週休2日工事に要する費用は、関連する単価項目の単価に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。

8. カーボンニュートラル試行工事

本工事は、受注者の提案によるカーボンニュートラルに資する取り組みを推進する「カーボンニュートラル試行工事」である。

受注者は契約後、カーボンニュートラルに資する取り組みについて監督員と協議し、監督員により履行が確認された場合は、しゅん功時の工事の成績評定において加点評価を行うものとする。

8-1 評価対象となる取り組み

本工事において、カーボンニュートラルに資する取り組みとして、発注者が評価する取り組みは以下の1)～6)のすべてを満たす取り組みで監督員が認めたものとする。

- 1) 本工事で行う取り組み
- 2) 次のいずれかを行う取り組み
 - ・ 工事の施工に伴う二酸化炭素排出量の削減に寄与する取り組み
 - ・ 工事の施工に伴う二酸化炭素の吸収に寄与する取り組み
 - ・ 二酸化炭素の発生を低減して製造された資材等を活用した取り組み
- 3) 発注者が費用を計上していない取り組み
- 4) 他の取り組みなどで、工事成績評定で重複して加点評価しない取り組み
- 5) 対象工事において、実施が確認できる取り組み
- 6) 工事の安全や目的物の品質に影響を与えない取り組み

8-2 取り組み内容の提案及び加点評価対象の通知

カーボンニュートラルに資する取り組みの提案については次のとおりとする。

- 1) 受注者は取り組みを実施する場合、カーボンニュートラル施工計画書(様式-9)を監督員に提出するものとする。
- 2) 監督員は、提出されたカーボンニュートラル施工計画書の内容を確認し、しゅん功時の工事の成績評定において加点評価対象となる提案項目を工事打合簿により受注者へ通知するものとする。

なお、監督員が提案項目を加点評価対象と認めない場合、受注者は施工計画書を修正し改めて提出することができるものとする。

8-3 履行の確認

カーボンニュートラルに資する取り組みの履行の確認については本特記仕様書に定める創意工夫・社会性等に関する実施状況(様式-10)により工事完了までに監督員に提出するものとする。

なお、本工事で実施したその他の創意工夫・社会性等に関する実施状況の提出についても、共通仕様書の様式によらず、本特記仕様書で定めた様式-10によるものとする。

9. 関連工事に関する事項

9-1 対象工事

契約書第2条に規定する発注者の発注に係る第三者が施工する他の工事は下表のとおりとする。
なお、下表に示す工事は現時点での予定であり、追加及び変更が生じる場合は別途監督員から指示するものとする。

このほか、東日本高速道路㈱旭川管理事務所で行う安全対策会議及び規制調整会議(毎週木曜日)に出席し、当該工事の規制に関連する工事の受注者と調整することとする。

受注者は、監督員が近接して施工を行う他工事と調整を行い、同一規制内での施工を指示した場合、これに従うものとし、他工事の円滑な施工及び調整に協力するものとする。

工事名	主な関連事項	予定工期	施行主体	受注者名
旭川管内 道路保全工事業務	工事区間の 重複	通年	東日本高速道路㈱	㈱ネクスコ・メンテナンス北海道
施設保全工事業務 施設保全管理業務 道路詳細点検業務	工事区間の 重複	通年	東日本高速道路㈱	㈱ネクスコ・エンジニアリング北海道
管理施設保全工事業務	工事区間の 重複	通年	東日本高速道路㈱	㈱ネクスコ東日本エンジニアリング
道央自動車道 奈井江川橋補修工事	工事区間の 重複	R5.1.24 ～R7.1.12	東日本高速道路㈱	武ダ技建創㈱
道央自動車道 旭川管内舗装補修工事	工事区間の 重複	R6.3.9 ～R8.2.26	東日本高速道路㈱	日本道路㈱

10. 工事費構成内訳書に関する事項

工事費構成内訳書の提出について、契約書第3条第1項に規定する「設計図書に基づく工事費構成内訳書」は、様式-2及び様式-2(別添)のとおりとする。なお、提出は共通仕様書1-19-1で規定する工程表と合わせて提出するものとする。また、工事費構成内訳書の提出は、当初契約締結時とし、契約変更時の提出は要しないものとする。

11. 工程表及び履行報告に関する事項

共通仕様書1-19-1「工程表の提出」及び1-19-2「履行報告」に規定する工程表(様式-3)(様式-4)の記入方法は下記のとおりとする。

(1) 共通仕様書1-19-1に規定する工程表

- 1) 準備・跡片付けは、工程のみを棒グラフで記入する。
- 2) 準備・跡片付け以外の項目は、工程を棒グラフで記入し、棒グラフの上段に各月ごとに累計計画出来高(%)を記入する。
- 3) 右側摘要部分の目盛に従い計画出来高累計折線を記入する。
- 4) 工程表に示す項目は各単価表の項目に関連する橋梁毎に合計し表示する。

(2) 共通仕様書 1-19-2 に規定する履行報告

上記工程表に下記の事項を記入し報告するものとする。

- 1) 棒グラフの下段に当月までの累計実施出来高を記入し、翌月以降の予定を（ ）で記入する。
- 2) 計画出来高累計折線に当月までの累計実施出来高及び翌月以降の予定を点線で記入する。
- 3) 当月までの延べ労働時間について月毎、年毎、累計について記入する。

12. 工事用道路に関する事項

12-1 工事用道路の指定

共通仕様書 1-22-1 「工事用道路の指定」の規定に基づき指定する工事用道路は、設計図に示すとおりとし、その路線名、区間、幅員及び延長等は、下表のとおりとする。

番号	路線名又は場所	幅員	延長	路面	用地	使用開始時期	施工者	備考
I	産化美唄川 市道 側道 33 号線	約 3.0 m	約 180m	砂利	無償	—	—	工事用 道路①
II	豊沼奈江川 河川管理用道路	約 3.0 m	約 200m	砂利	無償	—	—	工事用 道路②
III	豊沼奈江川 公衆用道路（奈井 江町所有）	約 3.0 m	約 260m	砂利	無償	—	—	工事用 道路③

12-2 既設道路の改良

受注者は、設計図書及び監督員の指示に従い、下表の既設道路の改良を行うものとする。また、工事完了時に撤去することとされている工事用道路については、撤去完了後、監督員に報告し、復旧状況等の確認を受けるものとする。

これらの改良、撤去に要する費用は関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払は行わないものとする。なお、監督員が改良方法・撤去方法等について、追加指示を行った場合は、受注者はその指示に従うものとし、これらに要する費用については、別途監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

番号	主な改良内容	借地区分	工事完了時の措置等
I	約 180m 区間の敷鉄板敷設	—	撤去
II	約 42m 区間の敷鉄板敷設	—	撤去
III	約 36m 区間の敷鉄板敷設	—	撤去

12-3 工事用道路の維持・補修

本特記仕様書 12-1 に示す番号 I～III の散水・清掃等の維持及び補修は受注者が行うものとする。これに要する費用については関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払は行わないものとする。なお、大規模な補修の必要が生じ監督員が指示した場合は、受注者は、その指示に従わなければならない。これに要する費用については、別途監督員と受注者とで協議し定めるもの

とする。

1 3. 貸与品に関する事項

1 3-1 貸与品

契約書第15条第1項に基づく貸与品は、下表のとおりとし、設計図書に定められた使用目的以外に機械を使用してはならない。

品名	品質（規格）	数量	引渡し場所及び 引渡し時期	貸与期間
交通規制標識類	ラバーコーン ロボット誘導員 規制標識 規制回転灯	1 式 (必要数)	旭川管理事務所 必要の都度	工事期間中

※上記の交通規制標識類以外の規制用機材（高輝度矢印板、夜間規制機材）は受注者が用意するものとするが、その費用については関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払は行わないものとする。

1 3-2 貸与品に関する費用

貸与機械の使用は無償とする。なお、機械の運転に要する燃料、油脂、現場修理及び管理に要する費用は、関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払は行わないものとする。また、受注者の責によらない事由により、規制機材等の貸与が受けられない場合は、監督員と受注者との協議し定めるものとする。

1 4. 残存物件の処理に関する事項

1 4-1 発生する残存物件と処理方法

本工事で発生する残存物件及び処理方法等は下表のとおりとする。なお、残存物件を処分する場合は、処分前にその数量の確認を受けるものとする。

品名	規格等	単位	数量	処理方法
排水管	本体及び付属金具	t	約 1	工事内処分 発生場所 工事施工箇所

1 4-2 残存物件の売却処分について

上表より、処分とした残存物件の処理に要する費用のうち、売却額を除く費用については、関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払いは行わない。残存物件の売却額については、処分する時期が決定した時点において監督員と受注者との協議し定めるものとする。

1 5. 保安に関する事項

1 5-1 工事用車両の運行速度

一般道の人家連担区域等や高速道路上における運行速度は、法定速度若しくは規制速度を遵守するとともに、過積載の防止等法令を遵守するものとする。

1 5 - 2 標識等の設置

共通仕様書 1 - 2 5 - 1 「安全対策」に規定する安全対策を実施するにあたっては、必要とする箇所及び期間において、工事標示板、標識等の交通安全施設を設置するものとする。

また、高速道路本線上における交通規制内の路上作業関係者に対し、危険車両等の誤進入による事故を防止するため、交通規制テーパー部に設置する矢印板においては高輝度反射式、危険車両が接近した際の規制内作業員への警告として用いる警報機付安全旗、大音量電子ホイッスル、交通規制内の工事箇所手前に進入車両強制停止装置等の交通安全対策施設を設置等の措置を講じるものとする。

なお、これらに要する費用のうち、一般道規制における工事標示板、標識等、堅固なバリケード、保安灯等に要する費用については、諸経費に含まれるものとする。

危険車両対策として実施する高輝度反射式の矢印板、進入車両強制停止装置の費用は関係する単価に含むものとし、警報機付安全旗、大音量電子ホイッスルについては諸経費に含むものとする。

また、安全施設について監督員が追加を指示した場合は、その指示に従わなければならない。なお、この場合の費用については、監督員と受注者で協議し定めるものとする。

1 5 - 3 交通規制

- (1) 交通規制は本特記仕様書 2 2 - 3 - 1 によるものとし、工事内容別の交通規制の種別は下表のとおりとする。なお、道路交通法第 8 0 条の規定に基づく協議により設計図書の変更が生じた場合は、受注者はこれに従うものとし、これに要する費用は監督員と受注者で協議し定めるものとする。

単価表の項目	交通規制が必要な作業の単価表の項目	備 考
交通規制工 車線規制 I × 1 × 0	<ul style="list-style-type: none"> ・中央分離帯転落防止網撤去設置工 ・排水装置取替 ・コンクリート除去工 ・検査路撤去設置工 	産化美唄川橋

- (2) 受注者は、監督員が近接して施工を行う他工事と調整を行い、同一規制内での施工を指示した場合、これに従うものとし、他工事の円滑な施工及び調整に協力するものとする。

1 5 - 4 桁下空間の確保

受注者は、下表に示す箇所を吊り足場や支保工等により遮断する場合は、一般車両及び工事用車両の通行に支障のないよう桁下空間を確保しなければならない。

番号	配置場所	桁下空間 (m)	摘 要
1	市道 側道 33 号線 (産化美唄川橋)	4. 7	
2	公衆用道路 (奈井江町所有) 河川管理用道路 (豊沼奈江川橋)	4. 5	

1 5－5 安全管理の強化

1 5－5－1 注意喚起の方法

発注者が提供する他工事の事故情報に基づき実施する注意喚起や現場点検にあたっては、当該工事に状況を置き換え、点検項目を設定するなどより具体的に実施し、不備があれば速やかに改善すること。

1 5－5－2 リスクアセスメント

工事の施工内容や施工環境の変化等に応じて、適宜、リスクアセスメントを設定（見直し）し、その結果に基づき、設計条件・施工条件・管理方法に対して必要な対策を講ずること。また新たに入所する作業班への引継ぎについても元請会社がその都度確実に実施すること。

特に供用道路、鉄道、家屋等に近接する第三者被害を伴う災害リスクが大きい工事や高速道路の規制を伴う工事は、事故発生の影響を考慮して適切なリスク評価を行うこと。

1 5－5－3 資機材落下防止

特に道路・鉄道との交差又は近接箇所及び高速道路等での資機材の飛散・落下に伴う公衆災害の防止対策について徹底すること。

1 5－5－4 新規入場者教育

新規入場者教育については、下請会社の統制、教育終了の確認、教育未了者の入場抑止手段などに留意して、元請会社が確実に実施すること。

1 5－6 現場内の安全管理

作業計画書に基づく作業手順の徹底及び安全管理責任者による現場の管理・確認と是正指導を徹底すること。

1 5－7 現場内の安全整備

受注者は、工事現場内の安全を図るため現場内安全整備員を配置しなければならない。現場内安全整備員は、常に腕章を着用してその所在を明らかにするとともに、警笛等の安全指示器を携行して安全確保のための合図、後片付け及び水溜りの除去等の現場内整備を行うものとする。なお、冬期休止期間並びに日常作業休止時においても、必要に応じ現場内の点検を行うなど常に安全の確保に努めなければならない。現場内の安全整備に要する費用は諸経費に含むものとし別途支払は行わないものとする。

1 5－8 第三者被害を想定した重大事故防止の取組み

(1) 定義

工事中の安全の確保については共通仕様書で規定しているところであるが、このうち下記に掲げる第三者への被害が想定される事故や供用中道路の通行止めや大渋滞に至る事故等（以下「重大事故リスク」という。）について、受発注者が一体となって安全向上に努める取組みをいう。

1) 重大事故リスク

定義	項目	内容
定義①	第三者被害が想定される事故	<ul style="list-style-type: none"> ○第三者の死傷事故 ○仮設材（橋梁架設ベント、仮栈橋の部材、足場等）の倒壊・転倒 ○住宅・道路等での近接作業による大型重機等の転倒 ○吊足場からの足場部材、・資材の落下 ○資機材運搬時の一般道路等への落下 ○光通信ケーブル等埋設物等の損傷による影響 ○工事に起因した家屋等の倒壊 ○供用路線 10 m 以内で施工する仮設土留工の仮設材等の落下又は転倒
定義②	供用中道路の通行止めや大渋滞に至る事故	<ul style="list-style-type: none"> ○橋桁、足場等の落下等による高速道路本線・交差道路の通行止めの発生、及び短時間による通行止め解放が困難となる事で生じる大渋滞 ○供用路線 10 m 以内で施工する仮設土留工の仮設材等の落下又は転倒

(2) 実施手順

実施手順は以下のとおりである。

1) 施工計画書への反映

受注者は、設計図書及び関係法令に基づき、重大事故リスクの抽出を行い、それらに対する安全対策について施工計画書に記載するものとする。

2) 受発注者間の協議

発注者は、受注者から監督員に施工計画書の提出がされたときは、受発注者合同で施工計画書に示された重大事故リスクに関して、施工計画書及び設計図書並びに現場確認を通して安全対策に不足が無いか確認（以下「重大事故リスクマネジメント」という。）を行うものとする。受注者は、協議の結果、施工計画書の修正が必要なときは修正された施工計画書を提出するとともに、受注者の全ての職員・作業員に対して実施すべき内容を伝達するとともに確実に実施すること。

3) 施工条件等の変更時の取扱い

発注者及び受注者は、施工条件等が変更となった場合は、前記 1)、2) で抽出し対策を定めた内容に変更が生じるときは改めて、前記 1) 及び 2) の手順により受発注者合同で重大事故リスクマネジメントを行うものとする。

(3) その他

重大事故リスクマネジメントの実施に要する費用は、諸経費に含むものとし別途支払いは行わない。ただし、重大事故リスクマネジメントの結果、設計図書で示す現地条件以外に別途現地調査や技術的な検討が必要なことが明らかとなった場合の費用等は、実施方針等も含め別途受発注者間で協議して定めるものとする。

1 5－9 光通信ケーブル等損傷事故防止対策

1 5－9－1 光通信ケーブル等損傷事故の防止

受注者は、高速道路に埋設又は添架されている光通信ケーブル等管路（以下、「光ケーブル等」という。）の損傷事故を防止するために光ケーブル等との近接箇所の工事の施工にあたっては、「光通信ケーブル等損傷事故防止マニュアル（令和3年7月）」（以下、「光通信マニュアル」という。）に基づき、万全の措置を講じなければならない。

1 5－9－2 光通信ケーブル等損傷事故防止監理者

- (1) 受注者は、高速道路に埋設されている光ケーブル等の損傷事故を防止するため、工事の計画、現場指導等の強化を実施する専任の光通信ケーブル等損傷事故防止監理者を定め、監督員に通知しなければならない。
- (2) 光通信ケーブル等損傷事故防止監理者は、光通信マニュアルの内容を十分理解し、光ケーブル等の損傷事故防止に関して万全の措置を講じられるよう作業員に安全教育の徹底を図り、指導及び監督を行うものとする。また、試掘時及び近接工事作業時に現場に立会い、事故防止に関する指導、監督を行わなければならない。
- (3) 光通信ケーブル等損傷事故防止監理者は、現場代理人、主任（監理）技術者及び専門技術者と兼ねることができるものとする。

1 5－9－3 光通信ケーブル等損傷事故防止対策に要する費用

光通信ケーブル等損傷事故防止対策に要する費用は諸経費に含むものとし、別途支払は行わないものとする。ただし、監督員が埋設物に対する試掘等の調査を指示した場合はこれに従うものとし、これらに要する費用については監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

1 5－10 保安に関する費用

- (1) 本特記仕様書 1 5-3、1 5-4 に要する費用は、単価表の項目で支払いを行うものとする。1 5-5、6、7、8、9 に要する費用は諸経費に含むものとし、別途支払は行わないものとする。
- (2) 受注者は、本特記仕様書 1 5-4 の表以外の箇所であっても、必要がある場合は交通保安要員を配置しなければならない。なお、監督員が交通保安要員の配置の変更を指示した場合は、これに要する費用については監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

1 6．環境保全に関する事項

1 6－1 自然林の保全

河川区域内及び事業用地内の施工箇所の自然林については、工事によってむやみに伐採しないよう仮設計画等の施工計画段階で十分な検討を行い、周辺環境の保全に努めなければならない。

また、工事の施工に支障となる立木がある場合は、監督員に報告しその指示に従うものとし、これに要する費用については、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。

1 6－2 砂塵等の防止

受注者は、工事用機械及び車両の走行による砂塵等の被害を第三者に及ぼさないよう善良な管理を行うものとする。

1 6－3 高速道路の環境美化

受注者は、工事の施工に伴う交通規制の実施にあたり、その規制区間内のゴミ等を除去する等、高速道路の環境美化に努めなければならない。

1 6－4 騒音等に関する配慮

受注者は、施工に伴う工事用機械及び車両の騒音対策について、近隣の地域住民へ十分な配慮を講じて施工を行わなければならない。

1 6－5 汚濁水処理

ウォータージェット等により生ずる汚濁水は、関係法令等に従って適切に処理を行うものとする。また、受注者は汚濁水の処理方法について計画書を監督員に提出するものとする。

1 6－6 環境保全に関する費用

環境保全に関する費用は、関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払は行わないものとする。

1 7. 再生資源及び建設副産物に関する事項

1 7－1 再生資源利用計画書等の様式について

共通仕様書 1－28－2「再生資源、建設副産物及び特定建設資材」(1)及び(2)に示す再生資源利用計画書等の様式は共通仕様書の規定にかかわらず建設副産物情報交換システム（以下「COBRIS」という。）によるものとし、COBRIS登録に要する費用は受注者の負担とする。

ただし、やむを得ない事由によりCOBRISの使用ができないと監督員が認めた場合は、国土交通省のリサイクルホームページの建設リサイクル報告様式によることができるものとする。

1 7－2 建設副産物の活用等

(1) 共通仕様書 1－28の規定に基づき指定する建設副産物の取扱いは、下表のとおりとする。

建設副産物	発生場所	数量	活用方法等
コンクリート塊	コンクリート除去工	約 28 t	再資源化施設へ搬出 (有償)
建設汚泥	濁水処理箇所	—	最終処分
廃プラスチック類	伸縮装置補修工	約 1t	最終処分
鉄くず	伸縮装置補修工 排水装置取替	約 2t	最終処分

(2) 再資源化（最終処分）をする施設の名称及び所在地

建設副産物	施設の名称	所在地	受入条件
コンクリート塊	北 有 建 設 (株)	美唄市東 6 条北 11 丁目 1-8	・受入れ時間 7:30～17:00 (第 2・4 土曜、日曜・祭日は不可) ・1 片 50cm 以下
廃プラスチック類	(株)栄進	砂川市北光 495-22	・受入れ時間 平日及び祭日 8:00～16:30 第 1・3 土曜日 8:00～16:00 ・1 片 1m 以下
鉄くず	(株)マテッ ク	砂川市東 1 条南 22 丁目	・受入れ時間 8:00～17:00 (日・祭日は不可)

記載している事項については積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。

なお、受注者が提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

- (3) 建設汚泥は数量が未確定なため、その費用については監督員と受注者で別途協議し定めるものとする。

1 7 - 3 建設副産物の活用等に要する費用

建設副産物の活用等（建設汚泥の処理を除く）に要する費用は、関連する単価表の項目の単価に含むものとし別途支払は行わないものとする。ただし、監督員が必要であると認めて建設副産物の活用等の変更を指示した場合、受注者はその指示に従うものとする。なお、これらに要する費用について監督員と受注者で協議し定めるものとする。

また、本特記仕様書 1 7 - 2 (3)により定められた処理に要する費用は、監督員と受注者で協議し定めるものとする。

1 8. 補完検査に関する事項

1 8 - 1 補完検査

補完検査とは、しゅん功検査（一部しゅん功検査を含む。以下この項において「しゅん功検査等」という。）を実施しようとする時期に、現地気象条件等により工事目的物の検査（以下この項において「現地検査」という。）の実施に支障等が生じることが予想される場合に、しゅん功検査等に先立ち現地検査を行うものをいう。

1 8 - 2 補完検査の実施

補完検査は、現地気象条件等により現地検査の実施に支障等が生じることが予想され、しゅん功検査の場合にあっては共通仕様書 1 - 4 5 - 2 (1) 及び (2)、一部しゅん功検査の場合にあっては共通仕様書 1 - 4 6 - 2 (1) 及び (2) の条件を満たすと監督員が判断し、補完検査の実施について監督員から受注者に対して協議を行い、受注者が同意した場合に実施できるものとする。

1 8 - 3 検査日及び検査員名の通知

監督員は、補完検査の実施について受注者の同意が得られた場合は、補完検査に先立って受注者に対して、検査日及び検査員名を通知するものとする。

この場合において、受注者は、検査に必要な書類、資料及び写真等を整備するとともに、必要な人員及び機材等を準備し、提供しなければならない。

1 8 - 4 補完検査の内容

検査員は、監督員及び受注者の立会いの上、工事目的物を対象として契約書類と対比し、工事の出来形について、形状、寸法、精度、数量、品質及び出来ばえのうち現地にて確認すべき事項の検査を行う。

1 8 - 5 設計図書どおり工事が完成していない場合の取扱い

(1) 修補の指示

検査員は、修補の必要があると認めた場合は、受注者に対して、工期末の日（一部しゅん功検査の場合は指定部分の引渡し時期）を期限として修補の指示を行うことができるものとする。ただし、受注者がその指示に異議を申し出た場合はこの限りではない。

(2) 修補の完了の確認

検査員が、修補の指示をした場合において、修補の完了の現地確認は監督員が行うものとし、しゅん功検査時にしゅん功検査員に報告の上確認を受けるものとする。

(3) 修補が完了しない場合

検査員が指示した期限の日までに修補が完了しなかった場合には、受注者はしゅん功届又は一部しゅん功届を提出してはならない。この場合、受注者は修補の完了後、監督員に現地確認を受けた後にしゅん功届又は一部しゅん功届を提出するものとする。

1 8 - 6 補完検査を実施した場合のしゅん功検査

1 8 - 6 - 1 工事しゅん功届、工事一部しゅん功届提出の要件

補完検査を実施した場合は、共通仕様書 1 - 4 5 - 2 「工事しゅん功届提出の要件」、1 - 4 6 - 2 「工事一部しゅん功届提出の要件」に規定する満たすべき要件に下記を追加する。

・補完検査において修補の指示を受けた場合は、その修補が完了していること。

1 8 - 6 - 2 しゅん功検査の内容

補完検査を実施した場合は、修補の完了確認等特別な事情がない限り現地検査は行わず、書面にて共通仕様書 1 - 4 5 - 4、1 - 4 6 - 4 に規定する検査を行うものとする。

1 9. 現場環境改善に関する事項

受注者は、工事現場の現場環境改善を図るため、現場事務所、作業員宿舍、休憩所又は作業環境等の改善を行い、快適な職場を形成するとともに、地域との積極的なコミュニケーション及び現場周辺的美装化に努めるものとする。

実施する内容については以下のとおりとし、共通仕様書 1 - 2 0 - 1 「施工計画書の提出」に規定する施工計画書に具体的な実施方法を記載するものとする。本件に関する費用については、諸経費に含むものとし、別途支払いは行わない。

計上費用	実施する内容（率計上分）
現場環境改善 （仮設備関係）	1. 緑化・花壇 2. 環境負荷の低減
現場環境改善 （営繕関係）	1. 現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む）
現場環境改善 （安全関係）	1. 盗難防止対策（警報機等）
地方連携	1. 社会貢献

20. 工事用プレートに関する事項

発注者は、本工事の施工に必要な車両が下表に示す道路に乗り入れる場合は、工事用プレート（ETC対応）等を受注者（現場代理人）の申請により交付する。

受注者は、工事用プレート等を適正に使用し管理するとともに、本工事の施工以外の目的に使用してはならない。

道路名	区間	備考
道央自動車道	美唄 IC～奈井江砂川 IC	工事用車両 ※

※ 工事規制の設置・撤去に関わる標識車、規制資材の作業基地から現地までの運搬車を対象とする。
連絡車（現場代理人等の現場管理する技術者の車両及び現地までの労務員の輸送に使用する車輛）の有料料金については諸経費に含むものとし、指定のない工事材料を運搬する車両の有料道路料金については関連する単価表の項目に含むものとする。

21. 工事変更等検討会の設置

本工事は、工事の変更手続きの透明性及び公正性の向上や適正な工期確保を目的に、発注者と受注者が一堂に会して、工事の変更等の妥当性の審議及び工事工程クリティカルパス等の共有ならびにこれらに伴う工事中止等の判断等を行う場として開催する「工事変更等検討会」の試行対象工事である。「工事変更等検討会」の運用にあたっては、契約締結後、監督員より別途通知するものとする。

22. 工事細部に関する事項

22-1 施工計画書

共通仕様書1-20-1「施工計画書の提出」に次を追加する。

（16）光通信ケーブル等損傷事故防止の対策

22-2 構造物保全工

22-2-1 排水装置取替

（1）種別

共通仕様書17-6-2「排水装置の種別・材料及び製品検査」の項目によらず、下記のとおりとする。

単価表の項目	区 分 内 容
排水管 C 1	既設の鋼製排水管を撤去し、新たに高密度ポリエチレン管を主材料とする排水管（φ150（異径管を除く））を設置するもの。
排水管 C 2	既設の鋼製排水管を撤去し、新たに高密度ポリエチレン管を主材料とする排水管（φ200・φ200 と φ150 の異径管）を設置するもの。

（２）材料

排水管 C 1、C 2 に使用する高密度ポリエチレン管の材料は、共通仕様書 1 7－6－2 「排水装置の種別・材料及び製品検査」の項目によらず、次のとおりとする。

材質	材質 JIS K 6922（プラスチック－ポリエチレン（P E）成形用及び押出用材料）				
形状及び外観	形状及び外観 押出形成による内面平滑外面波付の二重構造管、色は原則として黒とする				
寸法・許容差	寸法・許容差 平均内径　：　± 2 %　 長さ　：　－ 0 %～＋ 2 %				
品質	試験項目	試験法	単位	規格値	
	扁平強度	試験法 710	kN/m	管内径に対する扁平強度	
				呼称内径	10%扁平
				150	2.1 以上
				200	3.6 以上
	上記以外は JIS K 6761 の規定による				

（３）数量の検測

共通仕様書 1 7－6－5 「数量の検測」に下記を追加する。

排水装置取替排水管 C 1、C 2 の数量の検測は、設計数量（m）で行うものとする。この設計数量は設置する排水管の設計流水線延長（m）とする。

（４）支払

共通仕様書 1 7－6－6 「支払」に下記を追加する。

排水管 C 1 及び排水管 C 2 の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1 m 当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う既設排水装置（取付金具を含む）の撤去、運搬（スクラップ処理による売却額を除く）、新設排水管及び継手等を含む付属品の製作、運搬、取り付け等排水装置取替に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成させるために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	単価表の項目	検測の単位
1 7－（1 4）	排水装置取替	
	排水管 C 1	m
	排水管 C 2	m

2 2－2－2 断面修復工

（１）定義

共通仕様書 1 7－9－3（１）「定義」によらず下記のとおりにする。

断面修復工とは、コンクリート構造物の鉄筋ケレン・防錆処理、プライマー塗布を行い、左官工法・吹付工法により断面修復材にて修復することをいう。

(2) 種別

共通仕様書 17-9-3 (2)「種別」に下表を追加する。

単価表の項目	区分内容	摘要
断面修復工 A1-1	固定足場上において、コンクリート除去工により除去した箇所の露出鉄筋のさび落とし、防錆処理を行い、コンクリート欠損部分に左官工法により断面修復材にて修復を行うもの。	
断面修復工 A1-2	固定足場上において、コンクリート除去工により除去した箇所の露出鉄筋のさび落とし、防錆処理を行い、コンクリート欠損部分に吹付工法により断面修復材にて修復を行うもの。	

(3) 施工

- 1) 共通仕様書 17-9-3 (4)「施工」に下記を追加する。
- 2) 本特記仕様書 22-2-3 事前調査工の結果により断面修復材に亜硝酸リチウムを添加する場合がある。なお、監督員が亜硝酸リチウムの添加の変更を指示した場合は、これに要する費用については監督員と受注者で協議し、定めるものとする。

(4) 支払

共通仕様書 17-9-3 (6)「支払」によらず下記の通りとする。

断面修復工の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、それぞれ 1 L 当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う鉄筋のケレン・防錆材の塗布、プライマー塗布、左官・吹付工法による断面修復工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

単価表の項目	検測の単位
17-(29) 断面修復工	
A1-1	L
A1-2	L

22-2-3 事前調査工

(1) 定義

事前調査工とは、設計図書及び監督員の指示に従い、断面修復工の施工範囲において構造物現況調査（含有塩分調査用試料採取等）を行うことをいう。

(2) 種別

事前調査工の単価表の項目の種別は、次表のとおりとする。

単価表の項目	区 分 内 容
事前調査工 A	既設コンクリート構造物の含有塩分量について調査するための試料を、コンクリート表面から 0～100mm の範囲について採取し、採取孔の復旧を行うもの。
事前調査工 B	既設コンクリート構造物の含有塩分量について調査するための試料を、コンクリート表面から 0～140mm の範囲について採取し、採取孔の復旧を行うもの。

(3) 施工

1) 調査位置の確認

事前調査工の施工に当たっては、監督員の立会いのもと詳細位置を確認のうえ行うものとする。

2) 削孔

鉄筋位置を避けて削孔する3点をマーキングし、電動ドリル等を用い、コンクリート構造物表面から0～100mm及び0～140mmの範囲において20mmピッチで計5層分及び計7層分の試料採取を行うものとする。

3) 採取

3点で採取した試料を同一層ごとに合わせたものを1試料とし、1試料当たり20g以上採取するものとする。また、採取した試料については、監督員に引渡しを行うものとする。

4) 復旧

試料採取のために削孔した孔は、断面修復工に用いる材料で復旧するものとする。

(4) 数量の検測

事前調査工は契約図書に示す箇所において、削孔を行った3点を1箇所当たりとし検測する。

事前調査工の数量の検測は、設計数量（箇所）で行うものとする。

(5) 支払

事前調査工の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対して、それぞれ1箇所当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う鉄筋探査の費用、コンクリート試料採取及び採取孔の復旧等事前調査工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	<u>単価表の項目</u>	<u>検測の単位</u>
特一（１）	事前調査工	
	A	箇所
	B	箇所

2 2－2－4 コンクリート除去工

(1) 定義

コンクリート除去工とは、設計図書及び監督員の指示に従い、既設コンクリート構造物の変状部分、脆弱部および劣化因子を取り除くために、コンクリート断面を所定の深さまで除去することをいう。

(2) 種別

コンクリート除去工の単価表の項目の種別は、次のとおりとする。

単価表の項目	区分内容	摘要
コンクリート除去工 A 1－1	固定足場上において、既設コンクリート構造物をウォータージェット工法によりコンクリートの除去を行うもの。	
コンクリート除去工 A 1－2	固定足場上において、既設コンクリート構造物のはつり完了断面から 10cm 以下の箇所をウォータージェット工法にて、コンクリート表面からウォータージェット工法施工位置までを電動ピック等を用いた打撃工法により、コンクリートの除去を行うもの。	
コンクリート除去工 処分費	コンクリート除去工で発生した、コンクリート塊の処分費用	

(3) 施工

- 1) 施工開始前に監督員の指示に従い施工前確認（打音点検による変状確認等）及び写真記録を実施し、調査結果を監督員に報告するものとする。なお、施工前確認に要する費用については諸経費に含むものとし、別途支払は行わないものとする。
- 2) コンクリート除去工は、構造物施工管理要領Ⅲ－3－1－2「はつり処理」の規定を適用するものとするが、ハンドガンタイプのウォータージェット機械を使用する場合には「構造物施工管理要領」Ⅲ－3－1－2（3）「性能照査」を省略できるものとする。

(4) 検量

処分費の検量は、処分先の検量器によって検量検査を行うものとする。なお、検量は計量表に押印した検量証明書を作成し、監督員へ提出するものとする。

(5) 数量の検測

コンクリート除去工 A 1－1、A 1－2 の数量の検測は、設計数量（L）で行うものとする。
コンクリート除去工 処分費の数量の検測は、提出された検量証明書の実数量（t）で行うものとし、検測および支払い数量の小数位は、共通仕様書 1－3 1－4「数量の小数位」によらず下表のとおりとする。

区分	処分費
検測数量	小数 3 位
支払数量	小数 2 位

(6) 支払

- 1) コンクリート除去工 A 1－1、A 1－2 の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対して、それぞれ 1 L 当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行うコンクリート除去、汚濁水およびコンクリート塊の回収、処理、ウォータージェットシステムに使用する水等コンクリート除去工の施工に要する労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用（本特記仕様書 1 7－2 に示す建設汚泥の運搬、処分に要する費用を除く）で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。
- 2) コンクリート除去工処分費の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対して、1 t 当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行うコンクリート除去工で発生したコンクリート塊の運搬及び処分等、コンクリート除去工処分費に要する労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	単価表の項目	検測の単位
特一（２）	コンクリート除去工	
	A 1－1	L
	A 1－2	L
	処分費	t

2 2－2－5 伸縮装置補修工

（１）定義

伸縮装置補修工とは、設計図書及び監督員の指示に従い、損傷した既設伸縮装置止水材の撤去及び新設する乾式止水材（寒冷地対応）・排水装置の製作及び取付けを行うことをいう。

（２）種別

伸縮装置補修工の単価表の項目の種別は、次のとおりとする。

単価表の項目	区分内容
伸縮装置補修工 A	豊沼奈江川橋上下線 P 1 橋脚において、既設の止水材及び排水装置を撤去し、既設伸縮装置ウェブプレート of 素地調整・清掃、プライマー塗布等を行い、新たな乾式止水材及び排水装置を設置するもの
伸縮装置補修工 B	豊沼奈江川橋上り線 P 3 橋脚において、既設の止水材及び排水装置を撤去し、既設伸縮装置ウェブプレート of 素地調整・清掃、プライマー塗布等を行い、新たな乾式止水材及び排水装置を設置するもの

（３）材料

伸縮装置補修工に使用する材料及び施工は、構造物施工管理要領Ⅱ－5－3 及びⅢ－6－1 の関連項目の規定によるものとし、伸縮装置補修を行う各橋梁の施工箇所に適用可能なものとする。

（４）施工

- 伸縮装置補修工は、構造物施工管理要領Ⅲ－6－1－4（２）の規定を適用して行う。
- 事前調査として設計図書及び監督員の指示に従って現況の遊間量を測り、設計図書を照査しなければならない。なお、本測定に要する費用は、諸経費に含むものとし別途支払は行わないものとする。
- 既設止水材や止水樋等については、周辺構造物に損傷を与えないよう慎重かつ正確に取り外さなければならない。
- 乾式止水材及び排水装置を設置する際は、周辺構造物に損傷を与えないよう正確に設置しなければならない。

（５）数量の検測

伸縮装置補修工の数量の検測は、設計数量（m）で行うものとする。

（６）支払

伸縮装置補修工の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、1 m 当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う既設伸縮装置止水材の撤去、ウェブ面の素地調整・清掃、ウェブ面のプライマー塗布、乾式止水材及び排水装置の製作・運搬・据付、廃材運搬、廃材処理等伸縮装置補修工の施工に要する材料・労力・機械器

具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	単価表の項目	検測の単位
特一（３）	伸縮装置補修工	
	A	m
	B	m

2 2 - 2 - 6 検査路撤去設置工

（１）定義

検査路撤去設置工とは、設計図書及び監督員の指示に従い、既設の検査路を撤去、再設置することをいう。

（２）種別

検査路撤去設置工の単価表の項目の種別は、次のとおりとする。

単価表の項目	区分内容	摘要
検査路撤去設置工 A	橋梁下部工に添架している既設検査路（手摺及び歩廊・昇降梯子・ブラケット等）を撤去し、再設置するもの。	産化美唄川橋

（３）施工

検査路撤去設置工の施工は、既設検査路の撤去及び再設置時に既設構造物等へ損傷を与えないように注意して施工しなければならない。

（４）数量の検測

検査路撤去設置工の数量の検測は、設計数量（m）で行うものとする。

（５）支払

検査路撤去設置工の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対して、1 m当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う既設検査路の撤去、再設置に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。

	単価表の項目	検測の単位
特一（４）	検査路撤去設置工	
	A	m

2 2 - 3 交通規制工

2 2 - 3 - 1 交通規制工

（１）種別

共通仕様書 1 9 - 3 - 2 「種別」に規定する交通規制工の種別は、次表のとおりとする。

単価表の項目	交通規制箇所	交通規制内の 工事内容	標準規制時間※
交通規制工 車線規制 I × 1 × 0	道央自動車道 美唄 IC ～奈井江砂川 IC	<ul style="list-style-type: none"> ・中央分離帯転落防止網撤去設置工 ・排水装置取替 ・コンクリート除去工 ・検査路撤去設置工 	8:00～18:00 (9:00～17:00)

※上表の規制時間とは、1回当たりとして検測する交通規制工のうち、規制設置開始（標識設置開始）から規制撤去完了（標識撤去完了）までの時間である。

（ ）内の時間は、交通規制内の施工可能時間（休憩時間を含む）を示す。

交通規制工における保守を行う交通監視員の休憩時間等の交替要員については、交通規制工に含むものとする。

なお、受注者の責によらず、交通規制箇所及び交通規制内の作業時間が大幅に変更となった場合は、これらに要する費用について監督員と受注者で協議し定めるものとする。

（２）交通規制実施報告書の提出時期について

受注者は、共通仕様書 19-3-3「交通規制計画」に規定する交通規制工実施報告書を翌月上旬までに監督員に提出するものとする。

22-3-2 交通保安要員

（１）種別

共通仕様書 19-4-2「種別」に規定する交通保安要員の種別は、下表のとおりとする。

1) 本線部の交通規制

単価表の項目	配置場所	配置 人数	交代 要員	配置時間	備考
交通保安要員 交通監視員 A	道央自動車道 美唄 IC ～奈井江砂川 IC 交通規制内の施工箇所	1 名	—	9:00～17:00	

※上表の配置人数は、交通規制工で計上されている人数を除いた人数であり、配置時間は作業時間（休憩時間を含む）とする。

なお、受注者の責によらず、交通保安要員の配置場所及び配置時間が大幅に変更となった場合は、これらに要する費用について監督員と受注者で協議し定めるものとする。

2) 交通保安要員実施報告書の提出時期について

受注者は、共通仕様書 19-4-3「交通保安要員計画」に規定する交通保安要員実施報告書を翌月上旬までに監督員に提出するものとする。

(2) 支払

共通仕様書 19-4-5 「支払」に下記を追加する。

	単価表の項目	検測の単位
19-(2)	交通保安要員 交通監視員 A	人・日

2.3. 割掛対象表の項目に示す工事の内容

割掛項目対象表の項目に示す工事の内容は、共通仕様書第 1 章総則「表 1-3 割掛対象表の項目に示す工事の内容」によるほか、次のとおりとする。なお、これに要する費用は関連する単価表の項目の単価に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。

割掛対象表の項目名称	工事の内容
工事用道路費 A	工事用資機材の搬入及び工事用車両の進入において、軟弱箇所に敷鉄板を設置した工事用道路を設け、工事用道路の維持補修及び施工完了後に敷鉄板の撤去・運搬等を含む原形復旧に要する費用をいう。

2.4. 補足事項

2.4-1 設計図書の変更及び追加について

次に示す作業については、現在関係機関と協議中であり、関連する工事の設計内容を変更又は追加する可能性があるので、受注者は監督員と緊密な連絡を取るとともに、これについて監督員の指示があった場合は速やかにその指示に従うものとし、これらに要する費用は監督員と受注者で協議し定めるものとする。

- (1) 快適トイレを導入可能な場合は、仕様、費用について監督員と協議すること
- (2) 点検結果に基づく、補修箇所の追加・変更
- (3) 関係機関との協議に伴う交通規制工及び交通保安要員の追加・変更
- (4) 断面修復工の数量変更に伴う交通規制工及び交通保安要員の追加・変更
- (5) コンクリート除去工及び断面修復工の深さ・施工範囲の変更及び施工箇所の追加
- (6) コンクリート除去箇所における腐食鉄筋取替
- (7) 事前調査結果に基づく、伸縮装置補修の種別変更、排水装置の寸法変更
- (8) 検査路撤去設置工における撤去検査路の処分および新材による交換

2.4-2 工事記録情報の作成及び提出について

受注者は、共通仕様書 1-5.1-2 「工事記録情報」の規定に従って、「工事記録収集システム」へデータ入力完了後、「工事記録情報完了届」をしゅん功届提出予定の 2 週間程度前までに監督員に提出し、その後入力データの照査を受け、「工事記録情報チェック結果票」にて照査結果の通知を受けるものとする。また、照査の結果修正が生じた場合は、監督員の指示に従い速やかに修正を行うものとする。

工事記録収集システムに関する問い合わせ先は、別途監督員より通知する。

2 4 - 3 車両制限令を超える車両の運行に関する通行許可の確認結果の提出

受注者は、共通仕様書 1 - 6 2 における確認については、許可証の原本やオンライン申請においてはダウンロードした電子ファイルデータで確実に確認し、その確認結果を監督員に提出するものとする。

2 4 - 4 緊急時の協力業務

本工事期間中に旭川管理事務所管内の高速道路において、災害等が発生した場合は、監督員の指示に従い災害復旧に協力するものとする。これに要する費用については、別途、監督員と受注者で協議するものとする。

2 4 - 5 間接工事費の変更

2 4 - 5 - 1 対象となる項目

本工事は、間接工事費のうち「共通仮設費（率分）のうち営繕費」及び「現場管理費のうち労務管理費」の下記に示す費用（以下「実績変更対象費」という。）について、工事実施にあたって不足する技術者や技能者を広域的に確保せざるを得ない場合も考えられることから、契約締結後、労働者確保に要する方策に変更が生じ、土木工事積算基準の金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は実績変更対象費の支出実績を踏まえて最終設計変更時点で設計変更する試行工事である。

- ・営繕費：労働者の送迎費、宿泊費、借上費
（宿泊費、借上費については労働者確保に係わるものに限る）

- ・労務管理費：募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤に要する費用

なお、上記に関連し発生した間接工事費について、監督員が必要と判断した場合、その費用については監督員と受注者とで協議し定めるものとする

2 4 - 5 - 2 工事費構成内訳書

発注者は、契約単価合意の時（単価協議時）に本工事の当初積算における共通仮設費及び現場管理費に対する実績変更対象費の割合を工事費構成内訳書にて提示するものとする。

2 4 - 5 - 3 間接工事費計画書の提出

受注者は、間接工事費の増加費用を請求する予定がある場合、工期開始の日から 1 4 日以内に、前項で示された割合を参考にして実績変更対象費に係る費用の内訳を記載した間接工事費計画書（様式 - 5）を作成し、監督員へ提出するものとする。

なお、工期開始の日から 1 4 日以内に間接工事費計画書（様式 - 5）の提出がなかった場合は、間接工事費の増加費用の請求は行えないものとする。

2 4 - 5 - 4 間接工事費の増加費用の協議

- (1) 受注者は、最終契約変更時点において、実績変更対象費の支出実績を踏まえた増加費用を請求する場合は、間接工事費の増加費用に関する協議書（様式 - 6）〔変更間接工事費計画書及び実績変更対象費にて実際に支払った全ての証明書類（領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など）〕を監督員に提出し協議するものとする。
- (2) 発注者は、受注者からの請求があった場合においては、監督員が算定した増加費用の額を記した増加費用の協議書をもって、受注者と協議するものとする。
- (3) 間接工事費の増加費用の額（増加費用に係る一般管理費等を含む）の協議は、監督員が間接工事費増加費用見積方通知書により、受注者に対して見積書を監督員に提出するように通知

するものとし、受注者はその通知に従い間接工事費増加費用見積書（様式－ 7）を監督員に提出し協議するものとする。

- (4) 間接工事費の増加費用の額について、監督員からの間接工事費増加費用の負担額協議書により、受注者は同意書（様式－ 8）を監督員に提出するものとする。なお、協議開始の日から 28 日以内に協議が整わない場合には、監督員が定め、受注者に通知する。

2 4－ 5－ 5 受注者の責めに帰す事由の増加費用

受注者の責めによる工事工程の遅れ等、受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については設計変更の対象としない。

2 4－ 5－ 6 実績変更対象費に基づく間接工事費の増加費用の算定

実績変更対象費の支出実績を踏まえて設計変更する場合の増加費用の算定については、次のとおりとする。

- (1) 共通仮設費率分は、土木工事積算基準に基づく算出額から間接工事費計画書（様式・ 5）に記載された共通仮設費率分の合計額を差し引いた後、証明書類において確認された費用を加算して算出する。
- (2) 現場管理費は、土木工事積算基準に基づく算出額から間接工事費計画書（様式・ 5）に記載された現場管理費の合計額を差し引いた後、証明書類において確認された費用を加算して算出する。
- (3) 間接工事費の増加費用は、一般管理費等の費用を含む。
- (4) なお、全ての証明書類の提出がない場合であっても提出された証明書類をもって金額の変更を行うものとする。

2 4－ 5－ 7 虚偽申告

受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び競争参加資格停止等の措置を行う場合がある。

2 4－ 5－ 8 疑義

疑義が生じた場合は、監督員と協議を行うものとする。

2 4－ 6 保険の付保

保険の付保については、「共通仕様書 1－ 5 5－ 1 保険の付保」によらず、次のとおりとする。契約書第 5 7 条に規定する火災保険、建設工事保険、その他の保険（賠償責任保険は除く）の付保は任意とし、賠償責任保険（支払限度額 1 億円以上）は付保しなければならない。

2 4－ 7 実績価格調査票

受注者は、契約締結後、見積活用方式に係る見積対象項目に対し下請契約したとき、または、現場組織が構築されたときは、本工事の入札前に提出した最終参考見積書と契約後の実態に基づく比較を行う「実績価格調査票（別添－ 1）」を作成し提出するものとする。なお、監督員は、提出された実績価格調査票に疑義がある場合は、施工体制点検などの場を活用して受注者や下請負人に聞き取り調査を行うものとする。

2 4－ 8 遠隔立会

遠隔立会とは、遠隔立会実施要領（令和 5 年 1 0 月 東日本高速道路株式会社）に基づき、共通

仕様書「1－2用語の定義」に定める「確認」及び「1－30 検査及び立会い」に定める検査及び立会いについて、デジタル通信技術を活用し遠隔地からの確認、検査及び立会いの実施により、受注者及び発注者の工事等管理業務の効率化による生産性向上を図るものである。遠隔立会の実施有無、実施項目、費用等については、工事着手前に監督員と協議し定めるものとする。

監督員
殿

受注者
現場代理人

取得報告書

(工事名)

標記工事について、下記のとおり現場閉所の実績を報告いたします。

記

項目	内 容	日数	備考
対象期間	①令和○年○月○日 ～ 令和○年○月○日 着工日 ～ 工事完成日	日間	
	②年末年始（12/29～1/3）及び夏期休暇（3日）の期間	日間	
	③工事一時中止により工事全体を中止する期間	日間	
	④工場製作のみを実施している期間	日間	
	⑤冬期休止期間等特記仕様書に規定する発注者が工事 全体を施工対象外としている期間	日間	
	対象期間（A）＝①－②－③－④－⑤	日間	
現場閉所日	⑥土曜・日曜・祝日に現場閉所を実施した日数	日間	
	⑦平日の降雨・降雪等により現場閉所した日数	日間	
	現場閉所日数（B）＝⑥＋⑦	日間	
現場閉所率	現場閉所率＝B／A	%	

※監督員が閉所日を確認できる資料を求めた際には、受注者はこれに応じるものとする。

令和 年 月 日

東日本高速道路株式会社 北海道支社（事務所）
支社長（所長） 殿

住所
会社名
代表者名

工事費構成内訳書及び工程表の提出について

（工事名）

標記工事について、工事費構成内訳書及び工程表を作成いたしましたので、提出します。

様式－ 2 （別添）

工事費構成内訳書

（工事名）

工種・種別・細別	単位	数量	金額	摘要
単価表の合計金額	式	1		
諸経費①	式	1		
工事価格				
消費税及び地方消費税相当額	式	1		
工事費計				
工事価格のうち、現場労働者に関する健康保険、厚生年金保険及び雇用保険の法定の事業主負担額				

※必要に応じて法定福利費の算出根拠を添付すること。
※諸経費は該当する項目のみ記入すること。

工 程 表

工事名) _____

契約番号 _____

工事区間
自) _____
至) _____

工 期
自) 令和 年 月 日
至) 令和 年 月 日 (日間)

先月まで _____ (最上に計画出来高%)
今月分 _____ (最下に実施出来高%)

項目	数量	単位	令和○年度												令和△年度												摘要
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
																										100%	
																										90%	
																										80%	
																										70%	
																										60%	
																										50%	
																										40%	
																										30%	
																										20%	
																										10%	
																										0%	
全 体																											

延べ労働時間(月毎) 単位:h																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				</
-----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

冬季休止期間 ○月○日から○月○日

令和 年 月分工事工程報告

(工事名) _____

受 注 者
現 場 代 理 人
契 約 金 額

工期 自) 令和 年 月 日 (日間)

項 目	設計数量	契約金額 (円)	換算率 (%)	累 計 出来高 (%)	前月迄 出来高 (%)	今 月 出来高 (%)	摘 要
全 体							

監督員

殿

令和 年 月 日

受注者
現場代理人

間接工事費計画書の提出について

(工事名) _____

標記工事について、特記仕様書「請負代金額変更の特例」に基づき下記のとおり提出します。

記

【間接工事費計画書】				
費目		費用	内容	計上額（円）
共通仮設費	営繕費	借上費	現場事務所、試験室、労働者宿舎、倉庫、材料保管場所等の敷地借上げによる地代及びこれらの建物を建築する代わりに貸しビル、マンション、民家等を長期借上げする場合に要する費用	
		宿泊費	労働者が、旅館、ホテル等に宿泊する場合に要する費用	
		労働者送迎費	労働者をマイクロバス等で日々当該現場に送迎輸送（水上輸送を含む）をするために要する費用（運転手賃金、車両損料、燃料費等含む）	
	小計			
現場管理費	労務管理費	募集及び解散に要する費用	労働者の赴任手当、労働者の帰省旅費、労働者の帰省手当	
	賃金以外の食事、通勤等に要する費用		労働者の食事補助、交通費の支給	
	小計			
合計				

以 上

監督員

殿

令和 年 月 日

受注者
現場代理人

間接工事費の増加費用に関する協議書

(工事名) _____

標記工事について、特記仕様書「請負代金額変更の特例」に基づき下記のとおり協議します。

記

1. 契約締結年月日 令和 年 月 日

2. 契約番号

3. 工 期

1) 当初工期	自)	令和	年	月	日
	至)	令和	年	月	日
2) 変更工期	自)	令和	年	月	日
	至)	令和	年	月	日

4. 協議額 ¥ 円
(間接工事費の増加費用に係る一般管理費等を含まない)

5. 協議額内訳 別添「変更間接工事費計画書」のとおり

以 上

変更間接工事費計画書

（工事名）

（円）

費目		費用	内容	当初計上額	変更計上額	差額
共通仮設費	営繕費	借上費	現場事務所、試験室、労働者宿舍、倉庫、材料保管場所等の敷地借上げにようする地代及びこれらの建物を建築する代わりに貸しビル、マンション、民家等を長期借上げする場合に要する費用			
		宿泊費	労働者が、旅館、ホテル等に宿泊する場合に要する費用			
		労働者送迎費	労働者をマイクロバス等で日々当該現場に送迎輸送（水上輸送を含む）をするために要する費用（運転手賃金、車両損料、燃料費等含む）			
	小計					
現場管理費	労務管理費	募集及び解散に要する費用	労働者の赴任手当、労働者の帰省旅費、労働者の帰省手当			
	賃金以外の食事、通勤等に要する費用		労働者の食事補助、交通費の支給			
	小計					
合計						

※ 実績変更対象費にて実際に支払った全ての証明書類（領収書、領収書の出ないものは金額の適切性を証明する金額計算書など）を合わせて提出すること。

令和 年 月 日

監督員 殿

受注者
現場代理人

間接工事費の増加費用見積書

(工事名) _____

令和 年 月 日付け 号をもってご通知のあった標記については、
下記のとおり見積りいたします。

記

間接工事費の増加費用 (一般管理費等を含まない額)	円
上記に係る一般管理費等	円
合計	円

以 上

令和 年 月 日

監督員

殿

受注者
現場代理人

間接工事費の増加費用同意書

(工事名)

令和 年 月 日付け 号で協議のありました間接工事費の増加費用
については同意致します。

以 上

創意工夫・社会性等に関する実施状況

工事名			受注者名	
項目	評価内容	実施内容		
<input type="checkbox"/> 創意工夫 自ら立案実施した創意工夫や技術	<input type="checkbox"/> 施工	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施工に伴う器具、工具、装置等の工夫 ・ コンクリート二次製品等の代替材の利用 ・ 施工方法の工夫、施工環境の改善 ・ 仮設備計画の工夫 ・ 施工管理の工夫 ・ I C T（情報通信技術）の活用等 		
	<input type="checkbox"/> 品質	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土工、設備、電気の品質向上の工夫 ・ コンクリートの材料、打設、養生の工夫 ・ 鉄筋、コンクリート二次製品等使用材料の工夫 ・ 配筋、溶接作業等の工夫等 		
	<input type="checkbox"/> 安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全教育・講習会・パトロール等の工夫 ・ 仮設備の工夫 ・ 作業環境の改善 ・ 交通事故防止の工夫 ・ 環境保全の工夫 		
	<input type="checkbox"/> カーボン ニュートラル	<ul style="list-style-type: none"> ・ C O 2 排出量の削減に寄与 ・ C O 2 の吸収に寄与 ・ C O 2 の発生を低減して製造された資材等の活用 		
<input type="checkbox"/> 社会性等 地域社会や 住民に対する貢献	<input type="checkbox"/> 地域への 貢献等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺環境への配慮 ・ 現場環境の周辺地域への調和 ・ 地域住民とのコミュニケーション ・ 地域生活に密着した貢献活動等の実施 ・ 災害時など地域への支援・行政などによる救援活動への協力 ・ 任意の使用範囲におけるコンクリートへの混合セメントの使用（使用可能数量において、50%以上使用した場合） ・ 国土交通省による認定を受けた低炭素型建設機械の使用等 		

1. 該当する項目の□にレマーク記入。
 2. 具体的内容の説明として、写真・図面等を説明資料に整理。
 3. 提出可能な項目数は、10項目までとする。
- （注）Kcube2による提出とする。

提出日：令和 年 月 日

監督員

殿

受注者名

現場代理人

実績価格調査票の提出について

工事名)

標記工事について、見積対象項目に関する調査票を提出します。

番号	項目 番号	名称	単位	数量	参考見積書		実績価格	
					単価	金額	単価	金額
【参考見積書の金額と実績価格の金額に開差がある場合には理由を記載】								
【参考見積書の金額と実績価格の金額に開差がある場合には理由を記載】								
【参考見積書の金額と実績価格の金額に開差がある場合には理由を記載】								
【参考見積書の金額と実績価格の金額に開差がある場合には理由を記載】								
【参考見積書の金額と実績価格の金額に開差がある場合には理由を記載】								
		経費	式	1				
【参考見積書の金額と実績価格の金額に開差がある場合には理由を記載】								